心のバリアフリーノート
指導上の留意点

心のバリアフリーノートの活用に当たって

中学校、高等学校段階における資料の特徴

中学校、高等学校段階においては、生活の中にあるバリアについて理解するにとどまらず、自らバリアフリーな社会の構築に向き合い、新たな問題に気付き、課題解決に向けて取り組もうとする実践的な学習活動となるように本資料の内容を構成しています。

(1) 教育課程上の位置付け

本学習の教育課程上の位置付けは、総合的な学習（探究）の時間における福祉や人権に関する学習活動と特別活動における学級（ホームルーム）活動の時間等を活用することなどをイメージしています。総合的な学習（探究）の時間では、生徒の興味・関心に基づく課題設定や学校の特色を生かす活動との関連を図って授業を構想する必要があります。特別活動においては、生徒の切迫感ある題材設定と集団における話合い活動、課題解決に向けた合意形成や意思決定の学習活動を経て、実践への意欲につなぐことが求められます。

(2) 内容構成

本資料は､授業の展開の手順を踏まえた「三つのパッケージ」と「コラム」と「学級（ホームルーム）経営に生かす視点」として資料を構成しています。

①「パーケージⅠ」は、バリアに気付き、多様性を考え、バリアフリーに関する基本的な「知識及び技能」の習得を図る学習内容（過程）としています。

②「パーケージⅡ」は、バリアフリーに関する基本的な「知識及び技能」をもとに、資料や事例からバリアフリーについて「思考力・判断力・表現力等」や「学びに向かう力・人間性」の育成を目指す学習内容（過程）としています。

③「パーケージⅢ」は、「パッケージⅠ」、「パッケージⅡ」の学習を踏まえ、身近な学級やホームルームにおける生徒理解につながる取組としています。また、校内における教職員研修会で活用いただけるような資料も用意しました。

④「コラム」については、障害のある人々の在り方生き方からバリアフリーや生徒各自の現在及び将来の自己実現について考えられるような資料としました。

⑤「障害のあるなしに関わらず全ての生徒を大事にした学級・ホームルーム経営の視点（例)」に関する資料は、学級（ホームルーム）担任としてすべての生徒にとって学びやすく、居心地のよい環境づくりをするために留意すべき視点を取り上げたものです。

(3) 本資料の活用に当たっての留意点

本資料は、バリアに気付き、多様性を考え、障害のある人々ついての理解を中心としつつも、障害の有無にかかわらず、誰に対しても「心のバリアフリー」が実現（実行）できることを目指しています。特に、学級（ホームルーム）における実際の問題を扱う場合には、個々の生徒の心情に十分配慮して、生徒自身がよりよい集団、学校生活を築くことができるような指導に心がけ、十分な人権教育上の配慮をして指導する必要があります。

バリアフリーに関する基本的な理解

〈作成理由〉

生活の中には様々なバリアがある。何気なく過ごしている生活の中をバリアフリーの視点で見直すことができるようイラストを用いた学習活動を設定した。多様な人々が生活する場面を他者の気持ちになって考える学習活動を通して、バリアに気付いたり、再認識したり、さらには疑問を感じながらバリアフリーに関する基本的な理解を深めていったりしてほしい。

また、日常生活では気付くことができないバリアにもイラストを通して気付き、新たな視野を広げることも期待したい。

⑴**ね ら い**：バリアによって、社会の中には困っている人がいることに気付く。
障害のある人の妨げとなるバリアは、個々の努力で取り除くことができることを理解する。

⑵**対象生徒**：中学１年生～高校１年生

⑶**指導案例**

時間	展開	学習活動	教師の働きかけ（〇）・留意点（※）
３分	全体	１　社会には多様な人々がいて協力して生活していることを確認する。	〇学習教材資料（イラスト）（P4，5）を提示し、これまでの関連する学習（家庭科・社会科など）の例を取り上げながら社会に生きる人々の多様性に触れる。 ※障害の有無に焦点をあてるのではなく、人の多様性に着目できるようにする
５分	個人	２　イラストから困っている人を見付け、なぜ困っているのかを考え、イラストに記入する。	〇学習教材資料（イラスト）（P2，3）を提示し、気付いた部分にしるしを付け、イラストにメモを書き込んでいくように説明する。 ※机間指導では生徒の気付きを認め、学習への意欲を高める
７分	グループ	３　イラストを見て、気付いたことについてグループで意見交換する。	※机間指導の際に合理的配慮やユニバーサルデザインなどに気付いているグループがいた際には後で紹介できるようにチェックしておく
10 分	全体	４　イラストの中の困っている人と困っている理由を発表し合い、全体で共有する。	〇発表する際には発表する個数を指定するなどし、どのグループも意見を出すことができるようにする。 ※３の机間指導の際に各グループでの気付きをメモしておき、たくさんの気付きを共有できるようにする ※出てこなかった事項は補足する

時間	展開	学習活動	教師の働きかけ（〇）・留意点（※）
5分	全体	5　４つのバリアについて確認し、ノートに記入する。	〇学習教材資料（イラスト)(P6，7）を提示し、４つのバリアについて説明をする。 ※４つのバリアを理解しやすいように、４で出てきた事項と関連させながら説明するようにする
5分	個人	6　４つのバリアを踏まえて、バリアフリーとはどのようなことかを考え、ノートに記入する。	〇自分の考えを整理することができるように、考える時間を十分に確保する。 ※文章でまとめることが難しい場合には、箇条書きでもよいので自分の考えが記入できるようにする
5分	全体	7　それぞれの考えるバリアフリ ーを紹介し合いながら、バリアフリーの定義を確認する。	〇数人の生徒に発表の機会をつくり、それぞれのよさを認め合う。 ※生徒がノートに記録しやすいようにバリアフリーの定義（イラストP6，7の上段）を板書する
10分	個人	8　本時の学習を踏まえて、自分の身近なバリアに気付き、それに対して自分にできることを考え、ノートに記入する。	〇数人の生徒の発表から、本時の気付きや疑問を次時につなげるようにする。 ※ P6，7を使いまとめることもできる ※イラストの中の合理的配慮やユニバーサルデザインに気付いていた場合にはその気付きを取り上げて次時につなげる（P8参照）

心のバリアを体感してみましょう

〈授業案の作成の理由〉

あえて「親切にしたことが相手にとって必ずしも親切になるとは限らない」場面を設定した。「親切にすれば感謝されて当たり前」という気持ちが受け入れられなかったという理由で別の感情（何らかの偏見が生み出される、人と関わることをやめてしまうなど）を生み出すきっかけになりうると考えたからである。「人はみんな違う」という認識の下「相手に寄り添うこと」を大切にし、必ずしも自分が想定していたことでなくても、意気消沈せずに、少しでも役に立つことができないかを考えられる人を育てたい。

⑴ねらい：①自分とは異なる条件を持つ多様な他者とコミュニケーションを取る力を養い、すべての人が抱える困難や痛みを想像し共感する力を培う。
②誰もが当たり前のように、障害等に対する理解を深め、自分とは異なる条件を持つ多様な人々とのコミュニケーションを実践する社会を実現するため、個々人のマインドセットを促す。

⑵対象生徒：中学１年生～高校１年生

⑶指導案例

時間	展開	学習活動	教師の働きかけ（○）・留意点（※）
５分	【導入】		○学習教材資料（イラスト）（P10，11）を提示し、心のバリアを体感して、心のバリアについて考えることを説明する。 ○授業のルールを説明する。 ※授業のルールは後述参照 ※ルールは必ず徹底する ※（A）（B）（C）のイラストを拡大コピーして示す等の工夫により、別々に提示する
10分	【展開Ａ】	１　（Ａ）について自分が感じたことを記入し、隣同士で共有する。	※机間指導 ○活動が止まっている生徒を支援する。
	【展開Ｂ】	２　（Ｂ）について自分が感じたことを記入し、隣同士で共有する。	
	【Ａ・Ｂ】	３　（Ａ）（Ｂ）両方の場面を比べて感じた自分の意見をワークシートに書き込み、その後クラスで共有する。	○生徒の意見を傾聴し、教師の意見は言わずに受け入れる。 ○生徒が意見を安心して言えるよう和やかな場にする。
	【展開Ｃ】	４　（Ｃ）について自分が感じていることを記入し隣同士で共有する。その後クラスで共有する。	※「良いことをしたので感謝されて当然だと思っている」ことに意識を向けられるようにする ※「見た目だけで判断している」ことが生徒の意見として出てくるよう、質問等を行う

時間	展開	学習活動	教師の働きかけ（〇）・留意点（※）
10分	【展開D】	5　（D）の紹介を聞いた後、何か気づきがあれば隣同士で共有する	〇（D）を読み上げる。 何か気づきがあれば隣同士で共有する。 ※つぶやきの中に聞こえてくる生徒の言葉に注意を払う（最後のフィードバックに反映）
	【展開E】	6　（E）のワークシートの記入をする。記入後、クラスで共有する。	〇（E）を読み上げる。 先ほど書いたことと今の自分が感じていることの違いをワークシートに記入する時間を取る。 ※記入している間は静かに書くことに集中するよう促す（内省の時間）
15分	【展開E】	7　ワークシートの内容をクラスで共有する。 積極的に話し合いに参加する。	〇ワークシートの内容をクラスで共有するお互いの意見を積極的に聞くよう促す ※他人の意見で何か心に触れたら、メモを取るように促す
	【展開G】	8　（G）の会話の続きを考えて記入する。	〇（G）を読み上げ、会話の続きを考えるよう指示する。 ※記入している間は静かに書くことに集中するよう促す（内省の時間）
10分	まとめ	9　・振り返りを記入する。 ・本時で自分が感じたことを、前向きにとらえ、心のバリアとは何かを考えながら振り返りを行う。	〇心のバリアについて生徒たちの本時の学びで特によかった点を簡潔にフィードバックする。 〇日常生活の場面でも学んだことを意識して良い雰囲気をつくっていくことへの期待を伝える。 〇振り返りを記入するよう指示 ※人は自分が良いことを行ったと自負していると、自然と相手に感謝を求める。しかし、そうではないこともある。そうではなかったときに、生じる「疑問」「不満」などが相手への先入観となって心にバリアを生み出すことがある点に留意する ※ややもすると、人は自分の思いを相手に押しつけてしまうことがる。例えば、相手に良かれと思ってした行為には、感謝を求めてしまうなど。それが行き過ぎると、感謝がなかった場合に不満が生じてしまうことも。こんな行き違いが心にバリアをつくりだすことになるかもしれないことを伝える

【授業のルール】
1 積極的にコミュニケーションを図る最大限の努力をする
2 相手を批判しない
3 相手の意見に心を傾け、認め合う
4 自分の考えや自分が感じたことを自分の言葉で表現する
5 自分の個人的な事柄はどこまで表明するのかは自分で決める

「すべての人の社会参加」を考えてみましょう。

〈授業案の作成の理由〉

「障害の社会モデル」の考え方を学ぶ。「障害のある人」＝「自力で生活できない人」という偏った見方や考え方を除去することの大切さを知ってほしい。社会での生きづらさは、健常者を中心として作られた社会のシステムから生み出されるものであることの理解から、多様性を認める心を培ってほしい。また「すべての人の社会参加」が実現する社会を創る糸口を、自分たちの経験から発見し、考えていくことができる人になってほしい。

⑴ねらい：①障害は「社会的な差別や不平等」によってもたらされるものであり、「社会や周りの環境の問題」であるという「障害の社会モデル」の考え方を理解する。
②自分とは異なる条件を持つ多様な他者とコミュニケーションを取る力を養い、すべての人が抱える困難や痛みを想像し共感する力を培う。
③社会にいるすべての人々が安心して社会参加ができるような社会を創るために一人一人ができることを継続して考える力を養う。

⑵対象生徒：中学１年生～高校２年生

⑶指導案例：※事前課題として、学習教材資料 P12 の②及び③をワークシートにまとめてくる。

時間	展開	学習活動	教師の働きかけ（○）・留意点（※）
５分	【導入】	１　・メモの内容を隣同士（前後左右など）で共有する。 ・お互いの話について感想を述べあう。	○学習教材資料（イラスト）(P12，13）を提示し、「すべての人の社会参加」について考えることを伝える。 ○授業のルールを徹底する。 ※授業のルールは後述参照 ※ルールは必ず徹底する
５分	【展開 A】	２　「障害の社会モデル」についての理解を隣同士で確認し合う	○「障害の社会モデル」について説明する。 ○先ほど共有したお互いの話を「障害の社会モデル」の考え方で解決できるかどうか話し合いをする時間をとる。 ※必要に応じて以下の２点を生徒に伝える ①解決することのみを目的にしないようにすること。 ②解決できないのではないかという意見は出ても良いこと。 ※自分自身も困っていることはないか、という視点をもつことも伝える
５分	【展開Ｂ】	３　メモをもとに「障害の社会モデル」の考え方で解決できるかどうか話しあう。	

時間	展開	学習活動	教師の働きかけ（〇）・留意点（※）
５分	【展開Ｃ】	４　ペアで話をしていたことを4人で共有する	〇４人程度のグループを作ることを指示する。 〇この後にグループで話し合いと発表があることを伝える。 ※机間指導を行いながら、各グループの話し合いの様子を観察し、話し合っている生徒の発言からキーワードを拾い上げておく
15 分	【展開Ｄ】	５　・共有した内容を整理する。 ・グループでよく話し合い、合意を図りながらまとめていく。 ・発表までの役割分担を行う。	〇「すべての人の社会参加」を実現するために「必要なこと」、「実現を阻むこと」、「実現を阻むことを取り除くために自分たちにできること」について各グループで話し合い、まとめることを伝える。 〇グループ内で共有した内容をまとめて発表することを伝える。 ※ A3 用紙１枚（白紙）やホワイトボードなどを使って整理する（ノートP12, 13 参照）
10 分	【展開Ｅ】	６　グループで発表する。	
５分	まとめ	７　振り返りを記入する。	〇最後にこれからの行動への期待を伝え、振り返りを行う。 ※「すべての人の社会参加」は学校の中の行事や日常生活にも欠かせないので、一人一人がこれからの生活の中で引き続き、今回のテーマを考えていってくれることを期待する

【授業のルール】
1 積極的にコミュニケーションを測る最大限の努力をする
2 相手を批判しない
3 相手の意見に心を傾け、認め合う
4 自分の考えや自分が感じたことをできるだけ表現する
5 自分の個人的な事柄はどこまで表明するのかは自分で決める

» パッケージⅢ -1　【生徒・理解編1】

〈作成理由〉

現代の中・高校生は，特定の人や限られた世界の中で生活する傾向があり、新たなことへの抵抗感をもっている。グローバル社会といわれる今、多様性を認め、受け入れ、協働することが求められる。そこで、生徒自身が見方や考え方の幅を広げることが必要となる。

⑴ね ら い：①自分のものの見方や考え方を客観的に見つめる。
②相互に理解し合うことの重要性に気付く。

⑵対象生徒：中学２年生～高校２年生

⑶指導案例

展開（時間）	学習活動	教師の働きかけ（〇）・留意点（※）
導入 （５分）	1　「あなたはどんな人ですか？」と質問し、自分がどんな特性を持っているかについて考える。	〇学習教材資料 P14 上段の「特性」という言葉の意味について説明する。 ※自分のことを客観視することが難しい生徒がいることも予想される。自分自身に問いかける時間と捉え、答えを出すことを求めない
ワーク１ （全体）	2　ワーク①の二つのイラストから共通点や相違点について考え、思いついた事柄を表現する。	〇ワーク①（学習教材資料 P14）について、イラストを提示し、説明する。 ※共通点や相違点については、できるだけ多くの発言を引き出す ※生徒一人一人が“気づき”の大切さを体験できるように指導する
ワーク１ （個人） （５分）	3　・イラストに注目し、二人の間にある障壁について考える。 ・「環境」「相手」「自分」の三つの視点から考え、ワークに記入する。	〇「障壁」という言葉の意味について説明する。 ※「環境」「相手」「自分」それぞれの見方が障壁（バリア）につながることがあり得ることに気づけるようにする ※なかなか記入できない生徒がいる場合、日常生活の中にある事柄を取り上げ、イメージできるよう促す
ワーク１ （全体） （５分）	4　意図的な指名により、「障壁」になり得る事柄を共有する。	〇「自分」の中にある障壁（バリア）について気づけるように働きかける。
ワーク２ （個人） （８分）	5　・ワーク②の二つのイラストに注目し、二人の間にある障壁について考える。 ・「環境」「相手」「自分」の三つの視点から考え、ワーク（ふせん）に記入する。	〇机間指導により、「障壁」について考えるように促す。 ※一人一人が「自分」の中にある障壁（バリア）に気づけるように働きかける
ワーク２ （グループ） （10 分）	6　・ふせんに書いた内容を整理し、グループ化する。 ・整理した用紙を黒板に掲示する。	〇整理が終わったグループから黒板に掲示するよう促す。
全体共有 （５分） （２分）	7　・掲示された内容を互いに見合い、自分と異なる内容についてメモする。 ・活動を振り返り、気づいたことや考えたことをまとめる。	〇自分とは異なる内容については赤ペンでメモするように指示する。
振り返り （５分）	8　気づきや考えについて発表する。	※机間指導等により、「自分」の中にある障壁（バリア）について内容を取り上げ、共有する

※授業の中で自分の思いや考えをふくらませられるように（イメージ化できるように）、ブラインドウォーク体験などを事前学習として行ってもよい。

※この学習後、行動につながるワークを行う。

» パッケージⅢ -2　【生徒・実践編1】（学級活動）

〈作成理由〉

本授業の流れの中には、生徒の意識づけを図るために自分で立てた目標を元に実際に行動し、定期的にどのくらいできたか、自分で振り返る機会を設ける。まずは学級の中で「できること」「できそうなこと」を考え意識づけをし、行動へつなげていきたい。

⑴ねらい：①自分のものの見方や考え方を客観的に見つめた上で、自分ができることを具現化すること。
②将来にわたって社会のなかでどう行動するべきか考え、実践しようとする姿勢を身に付けること。

⑵対象生徒：中学２年生～高校３年生

⑶指導案例

展開（時間）	学習活動	教師の働きかけ（○）・留意点（※）
導入 （５分）	1　・前回の学習で取り上げた障壁について想起する。 ・自ら考え、行動していくことの重要性について知る。	○学習教材資料 P16 を提示し、「自分」の中にある障壁（バリア）について内容を取り上げ、確認する。 ※生徒自身の普段の生活の様子やテーマに沿うニュース等を取り上げ、本学習の意義をつかめるようにする
展開１ （全体） （５分）	2　学級･ホームルームの中での「心のバリアフリー」について考える。	○「心のバリアフリー」とはどういうことか、学級全体で確認する。 ※事前アンケート等を取り、学級・ホームルームの課題や問題点などを考える機会を設定しておくのもよい
展開２－１ ワーク１ （個人） （10 分）	3　「私ができる（できそうな）『学級・ホームルーム』でのバリアフリー」について考え、プリントに記入する。	○一人一人が自分自身と向き合う時間と捉え、学級･ホームルームについて考える時間を十分確保する。 ※机間指導の中で、できるかどうか自信がない生徒がいることを想定し、なかなか記入できない生徒には「できそうなこと」として考え、記述するように促す
展開２－２ ワーク２ （個人） （10 分）	4　「あなたができる（できそうな）『学級･ホームルーム』でのバリアフリーを行動するにあたって、障壁になることまたはなりそうなこと」について考え､プリントに記入する。	○「障壁（バリア）」になっていることを取り除く努力をすることで誰もが居心地のよい学級･ホームルーム（社会）になることに気づけるような働きかけを心がける。 ○障壁の具体的内容について、記入が難しい生徒には、前回取り上げた「環境」「相手」「自分」に関することなどを補足し、イメージを持たせ考えやすくなるよう働きかける。
展開２－３ ワーク３ （個人） （10 分）	5　障壁をなくすためにできる（できそうな）ことを２つ具体的に書く。	○一人一人が自分自身と向き合い、行動につなげる具体策を考えられるように時間を十分確保する。 ※机間指導の中で、できるかどうか自信がない生徒がいることを想定し、なかなか記入できない生徒には「できそうなこと」として考え、記述するように促す
展開３ （グループ） （５分）	6　グループごとに自分が考えた具体策について伝え合う。	○学級･ホームルームの仲間がどんな具体策を考えたのかを生徒に伝えることで自分以外の様々な考え方があることを知る機会とする。
終結 （全体） （５分）	7　本時の授業を振り返るとともに互いの感想を聞き合い、実践への意欲を高める。	○教師による意図的指名により、本時の感想を全体で共有できるようにする。 ※１か月後、本時で考えた具体策を行動としてどれぐらい達成できたか振り返る学習をすることを伝える ○学級全体で向かうべき方向を明確にして伝え、授業のまとめとする。

※グループ学習を取り入れ、グループから行動につながる具体策を提案する流れもよい。

» パッケージⅢ -2　【生徒・実践編2】（学級活動・ホームルーム活動）

〈作成理由〉

本授業の流れの中には、生徒の意識づけを図るために自分で立てた目標を元に実際に行動し、定期的にどのくらいできたか、自分で振り返る機会を設ける。「意識づけ」が「行動」につながることを踏まえ、日常生活の様々な場面で本授業の話題を取り上げることも重要である。

⑴ねらい：①自分のものの見方や考え方を客観的に見つめた上で、自分ができることを具現化すること。
②将来にわたって社会のなかでどう行動するべきか考え、実践しようとする姿勢を身に付けること。

⑵対象生徒：中学２年生～高校３年生

⑶指導案例

展開（時間）	学習活動	教師の働きかけ（○）・留意点（※）
導入 （５分）	１・前回、「学級・ホームルーム」の中でのバリアフリーについて考えたことを想起する。 ・学校以外の場面で自ら考え、行動していくことの重要性について知る。	○学習教材資料 P17 を提示し、社会の中で中学生や高校生が自ら考え、行動に移した事例などを取り上げ、実践が可能であること、社会の中で頼りにされる存在になっていることの気づきを促す。
展開１ （全体） （５分）	２　学校以外の場面での「心のバリアフリー」について考える。	○「心のバリアフリー」とはどういうことか。学級・ホームルーム全体で確認する。
展開２－１ ワーク１ （個人） （10 分）	３　「私ができる（できそうな）『学校以外の場面（社会）』でのバリアフリー」について考え、プリントに記入する。	○一人一人が自分自身と社会をつなぐために考える時間と捉え、学級・ホームルームについて考える時間を十分確保する。 ※机間指導の中で、できるかどうか自信がない生徒がいることを想定し、なかなか記入できない生徒には「できそうなこと」として考え、記述するように促す
展開２－２ ワーク２ （個人） （10 分）	４　「あなたができる（できそな）『学校以外の場面（社会）』でのバリアフリーを行動するにあたって、障壁になること、またはなりそうなこと」について考え、プリントに記入する。	○「障壁（バリア）」になっていることを取り除く努力をすることで誰もが居心地のよい社会になることに気づけるような働きかけを心がける。 ○障壁の具体的内容について、記入が難しい生徒には、前回取り上げた「環境」「相手」「自分」に関することなどを補足し、イメージを持たせ考えやすくなるよう働きかける。
展開２－３ ワーク３ （個人） （10 分）	５　障壁をなくすためにできる（できそうな）ことまたはやってみたいことを２つ具体的に書く。	○一人一人が自分自身と向き合い、行動につながる具体策を考えられるように時間を十分確保する。 ※机間指導の中で、できるかどうか自信がない生徒がいることを想定し、なかなか記入できない生徒には「できそうなこと」として考え、記述するように促す
展開３ （グループ） （５分）	６　グループごとに自分が考えた具体策について伝え合う。	○学級・ホームルームの仲間がどんな具体策を考えたのかを生徒に伝えることで自分以外の様々な考え方があることを知る機会とする。
終結 （全体） （５分）	７　本時の授業を振り返るとともに互いの感想を聞き合い、実践の意欲を高める。	○教師による意図的指名により、本時の感想を全体で共有できるようにする。 ※約３か月後、本時で考えた具体策を行動としてどれぐらい達成できたか振り返る学習をすることを伝える

※グループ学習を取り入れ、グループから行動につながる具体策を提案する流れもよい。

※達成度を振り返る学習では、「できた」「できない」よりも将来に向けて生徒自身が行動につながるような考え方になっているかを捉えていくことが大切である。

» パッケージⅢ -3

（各校の現状に応じて職員研修等で活用する）

〈教師編〉：教師が生徒を理解するためのワーク

中学校および高等学校は教科ごとに授業者が変わり、様々な教師が生徒とかかわることになる。したがって、チームとして生徒とかかわる必要性があることを押さえ、生徒の内面を探りながら理解を深めることの重要性を認識し、教師同士が共通認識のもと生徒の指導に当たることを目的とする。

展開（時間）	活　　動	留意点
導入 （５分）	１・本研修での目的を伝え、生徒の特性を理解しながら授業設計していくことの重要性を確認する。 ・本研修会は40分間で行うことを伝える。	・生徒理解について個と集団に対する理解の両面があることを考慮し進めることを確認する。 ・本研修の全体の流れと時間配分を提示する。
ワーク１ （個人） （５分）	２・事例（１）の生徒の行動について説明し、「行動の解釈」をワークシートに記入する。 ・「行動の解釈」記入後、働きかけの具体案を記入する。	・様々な見とりがあり、一つの答えを出すことが目的ではないことを伝える。
全体共有 （５分）	３　２～３名ほど指名し、「行動の解釈」と働きかけの具体策について説明してもらう。	・異なる見方と具体策を取り上げて全体共有できるとよい。 ※見方が違うと指導方法が違ってくることに気づけるよう進行役が全体共有の場をまとめる
ワーク２ （グループ） （15 分）	４・４人グループになり､グループで進める。 ・進め方については、事例（１）と同様の流れで行う。 ・各グループで事例（２),（３）の生徒の言動について「行動の解釈｣｢働きかけ」の具体策を個人で考えたあと、グループで共有する。 ・各グループで意見交換後、異なる解釈と働きかけをプリントに記入する。	・グループ人数は３～４人とする。事前に意図的な座席配置を考え、着席できるようにしておくとよい。 ・行動の解釈や働きかけについては、一つにまとめることは求めない。多様な意見を大切にする。
全体共有 及び 振り返り （10 分）	５・各グループから出された意見を掲示する。５分程度、各自自由に他のグループから出された意見を読み、参考になる内容はメモする。 ・感想を発表し、教師自身がどのようなことを感じ、考えたかを共有する。	・グループ数が多い場合、発表ではなく、閲覧する時間を確保する。そうすることで、教師一人一人の意見を尊重していることを実感させる。 ・感想の共有は教師一人一人の考え方を尊重していることを伝える場とする。加えて、教師同士の信頼感につなげる。 ※振り返りから本研修の目的の達成度を見極めることができる

※本研修を一つのスタイルとし、２回目以降は各校の生徒の実態から事例を取り上げる。

【教師編】ワークシート
（教師が生徒を理解するためのワーク）

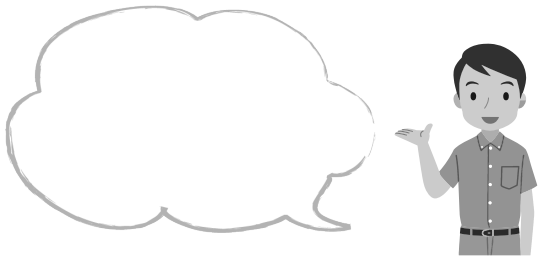
観察のポイント
「表情」「視線」「話し方（声の調子）」

◆生徒の気になる行動への対応◆　　年　組　番　名前

生徒が次のような行動をとっています。生徒の心の内側を想像しながら、考えてみましょう。

① ある日の授業中のこと。
ジャージの膝にほつれが…ノートを書く手が止まり、ずっとほつれをとり続けているK君。

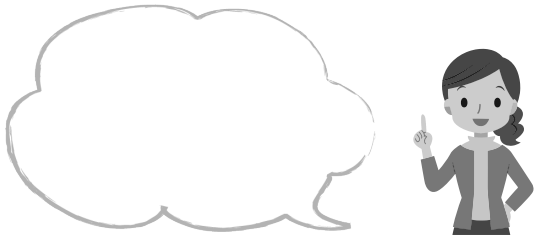
この行動をどのように解釈しますか。



さて、どのような働きかけをしますか？

② 忘れ物をするHさん。今日もまた忘れ物をしました。授業中、忘れた経緯を話し始めます。

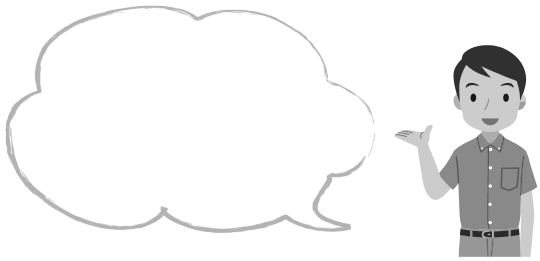
この言動をどのように解釈しますか。



さて、どのような働きかけをしますか？

③ 授業中おしゃべりをしていたＦ君とＯ君。注意すると、Ｆ君は表情がこわばりました。
一方、Ｏ君はにやけています。

F君とO君の表情の違い。
どのように解釈しますか。



さて、どのような働きかけをしますか？

障害のあるなしに関わらず全ての生徒を大事にした学級・ホームルーム経営の視点（例）

環境整備

① 教室前面の掲示物は最小限にします。（学校教育目標、学級・ホームルーム目標程度）
▶生徒の視覚的な注意力散漫を防ぎます。

② 黒板には授業以外のものは貼らず、チョークの色使いに配慮します。（文字は白と黄色、赤は枠組み等）
▶色覚については十分な配慮が必要です。

③ 学級･ホームルーム等での各自の役割が常に自覚できるように表示します。（曜日などの当番制こそ表示が必須）

④ 掃除用具の片付け方、活動の手順を具体的に提示します。（活動の過程を写真等で順に提示する）

⑤ 机の配置場所が誰でもわかるようにします。（わかりやすい目印をつける）

⑥ 座席配置は教師が意図をもって行います。（視力、身長等を配慮し、全員が黒板を見やすいようにする）

⑦ ロッカー等の使い方を明確にします。（効率が良く、使いやすい配置の仕方を共有化する）

組織編成

① 協力して週番及び日直、係活動ができるようにします。（複数名で役割を担う）

② 学級・ホームルーム等での各自の役割がすべての生徒で分担できるように配慮します。

③ 学級・ホームルーム等での役割分担は学級・ホームルームでの生徒の話合い活動で決定します。（合意形成を図り、全員が協働して活動できる組織をつくる）

指導過程

① 基本的な授業に臨む姿勢を示します。
▶望ましい姿勢や発言のルール等学習規律を示します。

② 本時の授業の目標を明示します。
▶明確に口頭による説明と板書を行います。

③ 学習の流れと時間を示します。
▶「課題、仮説、実験、発表、まとめ」などの流れと時間を提示し、学習への見通しがもてるようにします。

④ 活動の具体的な手順を図で示します。
▶作業を伴う活動においては口頭による説明だけでなく視覚に訴える明示が必要です。

⑤ グループ学習では役割分担や役割そのもののルールを確認します。
▶出身小・中学校や指導した学級担任等によって生徒の経験には相当な差が生じていることを前提に入学直後　や学年初めの指導を行う必要があります。

対話的な関わり

① 前置きして話します。（これから三つの話をします。一つ目は、二つ目は、三つ目は～）

② 肯定的な言葉をかけます。（「～できなかったら～しない」ではなく「～したら～しましょう」）

③ 具体的な言葉を大事にします。（目的や終点、量や回数を明確にする）

④ 語調に変化をつけます。（声のトーン、抑揚、速さの変化により強調する）

⑤ 非言語動作を活用します。（アイコンタクト、OK サイン、動作やアクションの活用）

⑥ よい行為を具体的に褒めます。（「〇〇がよくできていましたね」など具体的な行為を褒める）